

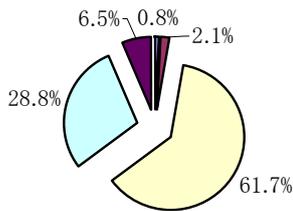
2012年秋「消費者の暮らし向きに関するアンケート」調査結果

【1】今後半年間の消費者の暮らし

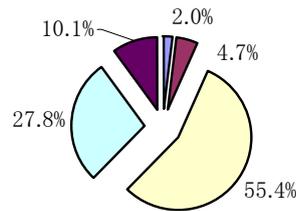
(図表01～05、データ01～12参照)

- 公益社団法人ふくい・暮らしの研究所の標記調査(2012年10月実施、回答数:902)の結果、今後半年間の「暮らし向き」について、『やや悪くなる』との回答が28.8%を占め、消費者マインドはやや低下しています。また、「収入」が減り、「支出」が変わらないため、「貯金」が減る、と県内消費者は予測しています。「暮らし向き」のD. I. 値経年変化の推移を見ると、今回の調査結果は▲32.4と、08年秋のリーマンショック時(▲47.0)や11年春の東日本大震災時(▲40.8)のレベルに近づいています。2014年度からの消費税引き上げや世界的な景気停滞の影響が、消費者のマインドに影響を落としていると思われます。
- 家計費目別では、「被服費」や「家電・家具」「光熱・水道費」の支出を大きく減らす傾向が見られます。さらに、「通信費」や「教養娯楽費」「自動車関連費」「食費」を抑制するなど、消費者マインドとしては耐久消費財の購入意欲減退や省エネ意識の浸透、携帯電話等膨らんだ通信費の見直しなどが進行しています。
- 今後半年間の旅行の予定は「ある」と「ない」が拮抗していますが、「ある」が「ない」を上回っているのは、シニア層、一人・二人暮らし、子供・親と同居していない世帯、高齢者がいる世帯となっています。旅行先は「国内近距離」、宿泊は「1泊」、旅費は「1～5万円」が多く、旅費平均は推計6万円強となっています。
- 「貯蓄をしようと思う」方が7割を越え、貯蓄額は「100万円～500万円」が多く、平均貯蓄額は推計で約800万円となっており、シニア層や一人・二人暮らし世帯では1千万円を超えています。貯蓄の目的は、「老後の生活のため」52.0%が最も多く、次いで「病気などの不時の災害に備えて」45.6%となっています。

図表01 「暮らし向き」12年秋調査(D. I. 値▲32.4)

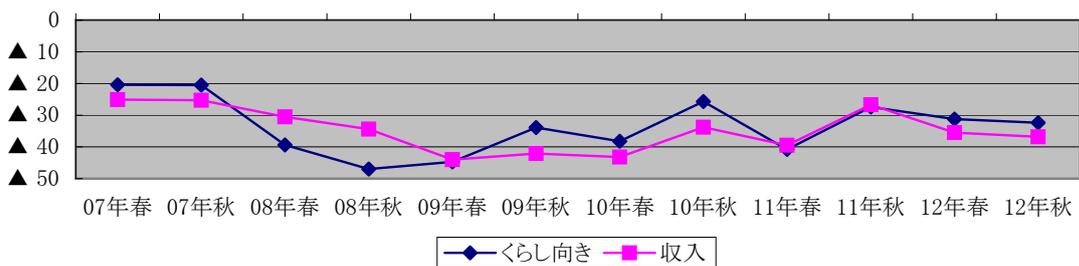


図表02 「暮らし向き」12年春調査(D. I. 値▲31.2)

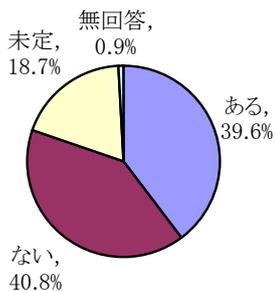


■良くなる ■やや良くなる □変わらない □やや悪くなる ■悪くなる

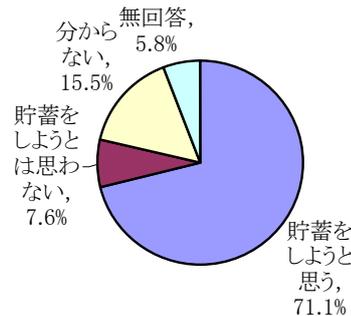
図表03 暮らし向き、収入のD. I. 値経年変化 ※08年秋:リーマンショック、11年春:東日本大震災



図表04 旅行の予定



図表05 貯蓄の予定

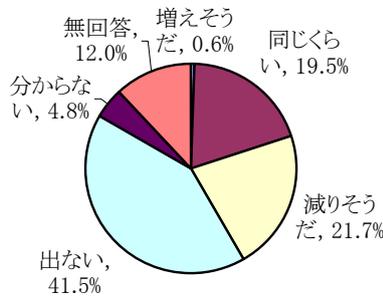


【2】今年のボーナス、お歳暮について

(図表06～12、データ13～21参照)

- 冬のボーナスは「出ない」が4割を占め、「減りそう」も2割強と厳しい実態となっています。ボーナスの使い道は、「貯蓄」や「その他」が多くなっています。「その他」の内訳は、『お年玉・正月費用』や『生活費繰り入れ』との回答が多くなっています。買物先は「県内の量販店・ショッピングセンター」が7割を占め、購入予定品は「婦人服・洋品」や「紳士服・洋品」、「子供服・ベビー服」が多くなっています。
- 今年のお歳暮を「贈る」方は5割強となっています。贈答先は「親戚」、1箇所当りの予算は「3千～5千円」が多く、平均予算は6千円弱となっています。お歳暮予定商品は、1位「日本酒・地酒」、2位「ハム」、3位「ビール」となっています。
- もらって嬉しいものベスト3は、1位「商品券、ギフト券」、2位「洗剤」、3位「食品、食料品」で、『自分では買えない高級食材や日持ちのするもの』などが喜ばれるようです。
- もらいたくないものワースト3は、1位「酒類、日本酒」、2位「菓子類」、3位「洗剤」「ギフトカタログ」で、『好みに合わないものや趣味性の強い飾り物、日持ちのしないもの、調味料』が挙げられています。ただし個人差が大きく、「洗剤」はベスト3、ワースト3ともに入っています。

図表06 冬のボーナスの予定



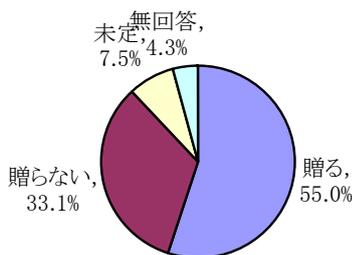
図表07 冬のボーナスの使い道

買物	1.1割
旅行・レジャー	0.5割
貯蓄(保険含む)	4.0割
借入金返済	0.9割
その他	3.5割

図表08 ボーナスでの購入予定品ベスト10

1位	婦人服・洋品	24.5%
2位	子供服・ベビー服	20.0%
3位	紳士服・洋品	17.9%
4位	靴	7.9%
5位	おもちゃ・ゲーム機	7.9%
6位	スタッドレスタイヤ	6.4%
7位	携帯電話、スマートフォン	5.5%
8位	贈答品	5.5%
9位	化粧品	5.0%
10位	その他	3.8%

図表09 お歳暮の予定



図表10 お歳暮予定商品ベスト10

1位	日本酒・地酒	14.5%
2位	ハム	14.5%
3位	ビール	14.1%
4位	洋菓子詰合せ	9.3%
5位	そば	8.7%
6位	かに	8.3%
7位	珈琲	7.9%
8位	米	7.5%
9位	小鯛の笹漬	6.9%
10位	果物詰合せ	6.3%

図表11 もらって嬉しいもの

商品券、ギフト券	142	酒類、日本酒	32
洗剤	74	ハム、生ハム	29
食品、食料品	65	米	26
果物、果物詰合せ	62	日用品	25
ビール	57	ギフトカタログ	21
食用油	56	コーヒー	20
菓子類	37	消耗品	17
肉、牛肉	33		

図表12 もらいたくないもの

酒類、日本酒	51	日用品	22
菓子類	45	ジュース	22
洗剤	44	コーヒー	19
ギフトカタログ	44	ビール	19
調味料	33	佃煮	19
石鹸	28	食用油	17
日持ちしないもの	27	お茶	15
ハム	24		

【3】生活や食、環境、福祉について

(図表13～17、データ22参照)

各項目について、自分の考えと合っているかどうかを百点満点で点数付けしてもらい、平均点を較べました。

- 生活・くらしでは、「家族の一体感や絆を深めることを第一に考えている」の点数が高くなっています。また、「家族みんなが楽しむために、よく外食する」の点数は低くなっており、家族の絆を強め、外食を控えて家で過ごす「おうちごはん」の傾向が強くなっているようです。また、自由記述を見ると、生活の苦しさや寂しさ等の悲鳴が聞こえてきます。

45～55歳	福井	自分達の生活以上に子供達が幸せに生活できる社会をつくる責任があると思います。
65歳以上	奥越	ただ、他人に迷惑を掛けないように生きています。一人暮らしですので、いつも心配です。
55～65歳	福井	給料は下がり税金は上がり生活は苦しい。老人・子供のための政策は一生懸命叫ばれているが、30代～50代の生活は苦しい。しっかりと税金は取られ、子供にはお金がかかり一生懸命働いているが苦しい。公務員は給料がよいが、民間会社は安い。特に福井の給料は低い。生活保護者の方が楽な暮らしをしている。
35～45歳	敦賀	景気回復が見込めないので、生活全般に漠然とした不安がある。何をするにも消極的で守りの姿勢になってしまう。

図表13 生活・くらしへの意識

	平均点
A. 家族の一体感や絆を深めることを第一に考えている	75.5
B. 自分で自由に使える時間は、家で過ごすのが好きなほうだ	65.3
C. 余暇は、家族サービスや旅行で過ごすことにしている	53.2
D. 家族みんなが楽しむために、よく外食する	42.8
E. 家計にゆとりがあった場合、消費するよりも貯金しておく	68.4

- 食、農業では、「多少値段が高くても安全・安心な食品を購入する」の点数が高い一方で、「家計のため低価格の食品を探して購入する」は、この項目で一番低くなっています。また、「輸入農産物は敬遠する」も高くなっており、依然として輸入農産物(特に中国産)の敬遠傾向は続いています。

図表14 食・農業への意識

	平均点
A. 多少値段が高くても安全・安心な食品を購入する	74.0
B. 家計のため低価格の食品を探して購入する	56.9
C. 多少値段が高くても地産地消を大切にする	63.6
D. 輸入農産物は敬遠する	68.0
E. 風評被害が心配だが、高放射線量産地の食品は手が出ない	65.5

ウ)災害防止、環境

- 災害防止、環境では、「自然の脅威の前では人の力には限界があり、どうしようもない」の点数が最も高くなっていますが、「我が家の災害に対する備えは十分である」は逆に低く、東日本大震災の脅威が残像として残っていると思われます。「災害ボランティア活動には積極的に参加したいと思う」は低くなっています。

55～65歳	福井	天候不順で災害が多く、高齢者も増えて、多方面で財政的に厳しくなる一方です。自分の生活を見つめ直し、無駄を省き、でも豊かな気持ちで生活していけたらと願っています。
--------	----	--

図表15 災害防止・環境への意識

	平均点
A. 自然の脅威の前では人の力には限界があり、どうしようもない	79.2
B. 我が家の災害に対する備えは十分である	47.6
C. 少々不便でも、積極的に省エネに協力したい	68.1
D. 災害ボランティア活動には積極的に参加したいと思う	51.9

- エネルギー政策では、「経済性重視の、安定供給可能なエネルギー政策を取るべきだ」(59.5点)、「安全性重視の、リスクの少ないエネルギー政策を取るべきだ」(74.6点)と、予測通り経済性重視より安全性重視の方が高くなっていますが、意外にその差は小さく、原発立地県としての特徴が出ています。

35歳未満	福井	中間層の世帯を無視しています。高齢者、低所得者には充分手厚い。もっと子育て世代に手厚くして欲しい。原発即時停止したら、日本の産業はストップします。いいのですか。長い目で、安定できるエネルギーを手に入れば良く、即時停止は感情的かつ現実的でない。ヒステリックに騒いで子供のようにです。
-------	----	--

図表16 エネルギー政策への意識

	平均点
A. 経済性重視の、安定供給可能なエネルギー政策を取るべきだ	59.5
B. 安全性重視の、リスクの少ないエネルギー政策を取るべきだ	74.6

- 福祉、税金では、「将来の社会福祉政策充実のため、重い税負担は仕方がない」の点数が低く、「高齢化対策(年金制度等)の充実を図る必要がある」や「少子化対策(育児支援制度等)の充実を図る必要がある」は高くなっています。しかし、「これ以上の税負担は耐えられない」の点数も高くなっており、少子高齢化対策は大切でも現状の税負担が重く、耐えられないとの思いが伝わってきます。この項目に関する自由記述では、福祉や税金にとどまらず、少子高齢化問題、雇用問題、政治の問題まで幅広く出されています。

65歳以上	敦賀	衣食住は自助努力できる点もあるが、環境、福祉は、政治、地域の人達の努力と輪が必要。
55～65歳	丹南	税制や年金制度など政策が信頼できない。これでは消費者マインドが上向くはずはない。福祉施設が多くなっているが、サービス内容に格差がある。質のレベルを一定にすべきである。
65歳以上	丹南	これから先の世の中、社会の変化に不安がつきまといます。少子高齢化を考えると、安定した生活が続くとは考えられない。どこかで縮小、痛みを分け合わないと成り立たないのではと思う。食、環境など命に影響あるものは、重視していきたい。福祉などでは、恵まれている面が多くあることを実感している。
35歳未満	敦賀	多少税金が上がっても、将来安心して年をとれる高福祉の社会を期待したい。今30代だが、老後が非常に不安。
55～65歳	福井	少子高齢化は直接的な支援より、若い人が十分収入を得ることができ安心して結婚・出産が出来るような社会をまず作ることが大切だと思う。若い人の正規採用が少なく、かわいそうだ。雇用状況をもっと考えて欲しい。
65歳以上	坂井	私達は老いても(国が約束してくれたことを信じて)頑張ってきましたが、これからは福祉(老人に対して)あてにならないと痛感しています。
45～55歳	丹南	税金は正当なことに使用され、平等に負担があり、国会議員だけが優遇されない様、天下りも止めて正しく使うのなら、税負担が重くなってもよい。だが、今のままでは絶対に嫌。
45～55歳	丹南	少子化対策は保育園や生まれた子に対してではなく、これから子供を産まないといけない若者の生活安定を考えていかないとと思う。結婚できない世の中が不安。契約社員では子供は産めない。
35歳未満	敦賀	乳幼児がいる子育て世代にとって税負担が重くなるのは本当に辛い。これで少子化対策といわれても安心して子供をたくさん産もうという考えにはならない。先行き不安すぎる。

図表17 福祉、税金への意識

	平均点
A. 将来の社会福祉政策充実のため、重い税負担は仕方がない	54.8
B. これ以上の税負担は耐えられない	67.7
C. 高齢化対策(年金制度等)の充実を図る必要がある	69.6
D. 少子化対策(育児支援制度等)の充実を図る必要がある	71.4

公益社団法人 ふくい・くらしの研究所では、半年に1回、4つの項目(くらし向き、収入、支出、貯金)について、直接消費者に5段階評価(良くなる、やや良くなる、変わらない、やや悪くなる、悪くなる)を聞き、結果を経年で分析し公表しています。

【1】今後半年間の家庭のくらし

データ01 今後半年間の「くらし向き」(無回答を除く)

	2012年秋調査		2012年春調査	
	件数	比率	件数	比率
良くなる	7	0.8%	21	2.0%
やや良くなる	19	2.1%	50	4.7%
変わらない	550	61.7%	588	55.4%
やや悪くなる	257	28.8%	295	27.8%
悪くなる	58	6.5%	107	10.1%
D. I. 値	▲ 32.4		▲ 31.2	

データ02 今後半年間の消費者のくらし

	くらし向き	収入	支出	貯金
良くなる	0.8%	0.3%	5.7%	0.2%
やや良くなる	2.1%	3.1%	23.4%	3.5%
変わらない	61.0%	55.1%	46.3%	40.4%
やや悪くなる	28.5%	27.2%	17.3%	30.9%
悪くなる	6.4%	12.3%	5.0%	22.6%
無回答	1.2%	2.0%	2.3%	2.3%
D. I. 値	▲ 32.4	▲ 36.8	6.9	▲ 51.0

データ03 くらし向き、収入のD. I. 値経年変化

	07年春	07年秋	08年春	08年秋	09年春	09年秋	10年春	10年秋	11年春	11年秋	12年春	12年秋
くらし向き	▲ 20.4	▲ 20.5	▲ 39.4	▲ 47.0	▲ 44.7	▲ 33.9	▲ 38.2	▲ 25.7	▲ 40.8	▲ 27.4	▲ 31.2	▲ 32.4
収入	▲ 25.1	▲ 25.3	▲ 30.5	▲ 34.4	▲ 44.0	▲ 42.1	▲ 43.2	▲ 33.8	▲ 39.5	▲ 26.7	▲ 35.5	▲ 36.8

【2】今後半年間の家計費目別支出

データ04 今後半年間の家計費目別支出のやりくり

	食費	被服費	家電・家具	家事サービス	教養娯楽費	自動車関連費	通信費	光熱・水道費	医療費	保険料	教育費	住居費
増やす	2.3%	2.5%	3.0%	6.9%	6.1%	5.0%	1.9%	2.7%	5.5%	3.0%	9.6%	5.5%
変えない	70.1%	38.9%	48.4%	68.6%	58.1%	60.3%	62.4%	50.3%	75.1%	77.1%	66.7%	74.3%
減らす	24.7%	55.4%	43.6%	15.5%	31.7%	28.3%	31.4%	44.0%	15.0%	15.4%	11.4%	14.7%
無回答	2.9%	3.1%	5.0%	9.0%	4.1%	6.4%	4.3%	3.0%	4.4%	4.5%	12.2%	5.4%
D. I. 値	▲ 23.1	▲ 54.6	▲ 42.7	▲ 9.5	▲ 26.7	▲ 24.9	▲ 30.8	▲ 42.6	▲ 9.9	▲ 13.0	▲ 2.0	▲ 9.7

【3】今後半年間の旅行

データ05 今後半年間の旅行予定

	件数	比率
ある	357	39.6%
ない	368	40.8%
未定	169	18.7%
無回答	8	0.9%

データ06 旅行先(データ05で「ある」、「未定」限定)

	件数	比率
国内近距離	197	37.5%
国内遠距離	156	29.7%
海外近距離	16	3.0%
海外遠距離	15	2.9%
無回答	142	27.0%

データ07 宿泊(データ05で「ある」、「未定」限定)

	件数	比率
日帰り	52	9.9%
1泊	193	36.7%
2～3泊	113	21.5%
4泊以上	29	5.5%
無回答	139	26.4%
平均(泊)	1.6	

データ08 旅費(データ05で「ある」、「未定」限定)

	件数	比率
1万円未満	20	3.8%
1～5万円	187	35.6%
5～10万円	118	22.4%
10万円以上	72	13.7%
無回答	129	24.5%
平均(千円)	62	

【4】貯蓄

データ09 貯蓄の予定

	件数	比率
貯蓄をしようと思う	641	71.1%
貯蓄をしようとは思わない	69	7.6%
分からない	140	15.5%
無回答	52	5.8%

データ10 現在の貯蓄額

	件数	比率
貯蓄していない	42	4.7%
100万円未満	125	13.9%
～500万円未満	227	25.2%
～1千万円未満	116	12.9%
～2千万円未満	85	9.4%
2千万円以上	90	10.0%
無回答	217	24.1%
平均(万円)	799	

データ11 今後の貯蓄

	件数	比率
増やしていく	293	32.5%
現状維持	286	31.7%
減らしていく	44	4.9%
分からない	79	8.8%
無回答	200	22.2%

データ12 貯蓄の目的(複数回答)

	件数	比率
病気などの不時の災害に備えて	411	45.6%
耐久消費財(車・家電)購入のため	167	18.5%
教育資金	215	23.8%
結婚資金	39	4.3%
旅行、レジャー、趣味のため	130	14.4%
老後の生活のため	469	52.0%
土地、住宅資金	83	9.2%
その他	22	2.4%
無回答	204	22.6%

【5】冬のボーナス

データ13 冬のボーナスの予定

	件数	比率
増えそう	5	0.6%
同じくらい	176	19.5%
減りそう	196	21.7%
出ない	374	41.5%
分からない	43	4.8%
無回答	108	12.0%

データ14 ボーナスの使い道(データ13で「出ない」、「無回答」除く)

	平均割合
買物	1.1
旅行・レジャー	0.5
貯蓄(保険含む)	4.0
借入金返済	0.9
その他	3.5

データ15 その他明細(複数回答)(データ13で「その他」限定)

	件数	比率
教育費・仕送り	75	22.1%
車検費用	79	23.2%
お年玉・正月費用	139	40.9%
年末支払い資金	44	12.9%
生活費繰り入れ	114	33.5%
その他	22	6.5%
無回答	104	30.6%

データ16 買物先(複数回答)

(データ13で「出ない」、「無回答」除く)

	件数	比率
県内の量販店・ショッピングセンター	292	69.5%
県外の量販店・ショッピングセンター	40	9.5%
県内の百貨店	35	8.3%
県外の百貨店	27	6.4%
県内の専門店	38	9.0%
県外の専門店	17	4.0%
その他	34	8.1%
無回答	90	21.4%

データ17 購入予定品(複数回答)(データ13で「出ない」、「無回答」除く)

	件数	比率		件数	比率
電気冷蔵庫	5	1.2%	レジャー・スポーツウェア	13	3.1%
電気洗濯機	4	1.0%	宝石・貴金属	1	0.2%
電気掃除機	4	1.0%	アクセサリ	3	0.7%
ルームエアコン	8	1.9%	腕時計	1	0.2%
ファンヒーター	1	0.2%	靴	33	7.9%
除湿機・空気清浄機	7	1.7%	傘・帽子	2	0.5%
カラーテレビ	5	1.2%	ハンドバック・かばん	14	3.3%
ビデオカメラ	7	1.7%	化粧品	21	5.0%
デジタルカメラ	8	1.9%	楽器	1	0.2%
パソコン	11	2.6%	コンサート・スポーツ観戦チケット	11	2.6%
DVD、ブルーレイ	6	1.4%	スキー用品	9	2.1%
携帯電話、スマートフォン	23	5.5%	ゴルフ用品	3	0.7%
高効率給湯器(エコキュート等)	0	0.0%	おもちゃ・ゲーム機	33	7.9%
サイドボード	2	0.5%	乗用車(新車)	10	2.4%
応接セット	4	1.0%	乗用車(中古車)	5	1.2%
ダンス	5	1.2%	自転車	5	1.2%
寝具・ベッド	8	1.9%	カーナビゲーション	2	0.5%
システムキッチン	2	0.5%	スタッドレスタイヤ	27	6.4%
食器洗い機	0	0.0%	贈答品	23	5.5%
紳士服・洋品	75	17.9%	太陽光発電	0	0.0%
婦人服・洋品	103	24.5%	その他	16	3.8%
子供服・ベビー服	84	20.0%	無回答	170	40.5%
和服・呉服	2	0.5%			
毛皮・コート類	7	1.7%			

【6】お歳暮

データ18 お歳暮予定

	件数	比率
贈る	496	55.0%
贈らない	299	33.1%
未定	68	7.5%
無回答	39	4.3%

データ19 贈答先(複数回答)(データ18で「贈る」限定)

	件数	比率
親戚	376	75.8%
知人・友人	106	21.4%
職場の上司	42	8.5%
学校の先生	3	0.6%
地域でお世話になった方	49	9.9%
その他	69	13.9%
無回答	17	3.4%

データ20 1箇所当りの予算(データ18で「贈る」限定)

	件数	比率
3千円未満	49	9.9%
3千～5千円	280	56.5%
5千～1万円	108	21.8%
1万～1.5万円	18	3.6%
1.5万～2万円	11	2.2%
2万円以上	9	1.8%
無回答	21	4.2%
平均(千円)	5.8	

データ21 予定商品(複数回答)(データ18で「贈る」限定)

	件数	比率		件数	比率
米	37	7.5%	素麺	4	0.8%
みかん	19	3.8%	ジュース	11	2.2%
りんご	28	5.6%	珈琲	39	7.9%
メロン	2	0.4%	羽二重餅	2	0.4%
果物詰合せ	31	6.3%	プリン	2	0.4%
生花	5	1.0%	クッキー	12	2.4%
梅干	8	1.6%	ケーキ	2	0.4%
らっきょう	13	2.6%	あられ・煎餅	22	4.4%
辛子明太子	12	2.4%	チョコレート	3	0.6%
かに	41	8.3%	和菓子詰合せ	28	5.6%
えび	12	2.4%	洋菓子詰合せ	46	9.3%
海苔・佃煮	21	4.2%	日本酒・地酒	72	14.5%
かまぼこ	3	0.6%	ビール	70	14.1%
小鯛の笹漬	34	6.9%	ウイスキー	1	0.2%
もみわかめ	12	2.4%	焼酎	7	1.4%
ハム	72	14.5%	洗剤	28	5.6%
牛肉	29	5.8%	石鹸	5	1.0%
チーズ	0	0.0%	日用品	6	1.2%
乳製品詰め合わせ	6	1.2%	商品券・ギフト券	18	3.6%
もち	12	2.4%	ギフトカタログ(商品選択型ギフト券)	15	3.0%
食用油	30	6.0%	その他	81	16.3%
調味料	17	3.4%	無回答	45	9.1%
お茶	7	1.4%			
そば	43	8.7%			

【7】生活や食、環境、福祉について

データ22 生活や食、環境、福祉に対する考え方

	項目	平均点数
ア)A.	家族の一体感や絆を深めることを第一に考えている	75.5
ア)B.	自分で自由に使える時間は、家で過ごすのが好きなほうだ	65.3
ア)C.	余暇は、家族サービスや旅行で過ごすことにしている	53.2
ア)D.	家族みんなが楽しむために、よく外食する	42.8
ア)E.	家計にゆとりがあつた場合、消費するよりも貯金しておく	68.4
イ)A.	多少値段が高くても安全・安心な食品を購入する	74.0
イ)B.	家計のため低価格の食品を探して購入する	56.9
イ)C.	多少値段が高くても地産地消を大切にす	63.6
イ)D.	輸入農産物は敬遠する	68.0
イ)E.	風評被害が心配だが、高放射線量産地の食品は手が出ない	65.5
ウ)A.	自然の脅威の前では人の力には限界があり、どうしようもない	79.2
ウ)B.	我が家の災害に対する備えは十分である	47.6
ウ)C.	少々不便でも、積極的に省エネに協力したい	68.1
ウ)D.	災害ボランティア活動には積極的に参加したいと思う	51.9
エ)A.	経済性重視の、安定供給可能なエネルギー政策を取るべきだ	59.5
エ)B.	安全性重視の、リスクの少ないエネルギー政策を取るべきだ	74.6
オ)A.	将来の社会福祉政策充実のため、重い税負担は仕方がない	54.8
オ)B.	これ以上の税負担は耐えられない	67.7
オ)C.	高齢化対策(年金制度等)の充実を図る必要がある	69.6
オ)D.	少子化対策(育児支援制度等)の充実を図る必要がある	71.4

【8】回答者の属性

データ23 年齢

	件数	比率
35歳未満	117	13.0%
35歳～45歳未満	135	15.0%
45歳～55歳未満	180	20.0%
55歳～65歳未満	234	26.0%
65歳以上	228	25.3%
無回答	6	0.7%

	件数	比率
子育て層	117	13.1%
ファミリー層	315	35.2%
シニア層	462	51.7%

データ24 地域

	件数	比率
坂井地区	120	13.3%
奥越地区	68	7.6%
福井地区	351	39.0%
丹南地区	180	20.0%
敦賀地区	98	10.9%
小浜地区	76	8.4%
無回答	7	0.8%

	件数	比率
嶺北北部	539	60.4%
丹南	180	20.2%
嶺南	174	19.5%

データ25 家族構成

	件数	比率
単身者	25	2.8%
夫婦のみ	209	23.2%
二世帯(夫婦と子供)	364	40.4%
二世帯(夫婦とその親)	49	5.4%
三世帯(子供・夫婦・親)	186	20.7%
その他	49	5.4%
無回答	18	2.0%

	件数	比率
一人・二人暮らし	234	28.1%
核家族	413	49.6%
三世帯家族	186	22.3%

データ26 家族特徴(複数回答)

	件数	比率
子供や親は同居していない	175	19.4%
乳幼児がいる	172	19.1%
高校生以下の子供がいる	215	23.9%
別居の大学生がいる	72	8.0%
70歳以上の高齢者がいる	281	31.2%
その他	136	15.1%
無回答	68	7.6%

	件数	比率
子供・親と非同居	175	19.1%
乳幼児	172	18.8%
高校生以下	215	23.5%
別居の大学生	72	7.9%
高齢者	281	30.7%